

飲水思源

町長 松岡市郎

筑紫哲也氏の死去に思うこと

前東川賞審査委員だったニュースキヤスターの筑紫哲也氏が肺がんで死去された。今から7、8年ほど前の話である。国保を担当していた時、駄目で元々という気持ちで筑紫さんに直接原稿の依頼をしたことがある。1カ月ぐらい経った後、筑紫さんからの原稿を手にした。依頼した原稿は「文化と健康」についてのものだった。

この中で「『空気がうまい』東川町には、スローライフが存在している」とありますが、空気と同様、案外そのことに気付いていないのかも知れません。そのこの意味をどう考えるか、……が「文化」と「健康」を考えるヒントとなると結んでいる。原稿の中には何度も「うまい空気」が出てきており、私は町の自慢を「うまい空気 おいしい水 豊かな大地」とし、筑紫さんの言葉を借りて「うまい空気」と表現させてもらっている。

町長に就任してから何度か、東川賞審査員として、夕食を共にした。多忙な方であったが、必ず出席してくれた。たばこを吸いながらビールかワインを飲むが、たばこの火は消

えることはなかった。チェーンスモーカー的だった。

2005年11月、筑紫さんは1959年から2005年にかけて巡り合った人々の印象について書かれた「旅の途中」（朝日新聞社）という本を出版された。この本の終章に「『落丁』が気になる世界……。息子がそれを仕事として選択するほか前からの好きが昂（こう）じて、『東川賞』の唯一、素人の選考委員となり10年を超える写真の世界。」と東川について書かれている（今は、筑紫さんの推薦により、最年少芥川賞作家の平野啓一郎氏に引き継がれている）。

昨年、肺がんの手術後、全快のご挨拶に、とアポなしで訪問させていただいた時は、関西へ出向き不在であったが、関係者が温かく迎えてくれた。筑紫さんと一緒にしていると、スローに時が過ぎていくのを感じた。しかし人生はアーリー過ぎた。地方思いの優しい人で、地方を応援くださったことに深くお礼を申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

台 掌

短歌

晩秋に無常の風吹き天遊きて、この骨箱しなご提ぬ
病伏してすでに立ち得ぬ友のあり、この光きを思えば哀し
老いの顔寄せつらまに紫陽花は狭庭の隅に色褪せて居り
霜着のひと匹の蟬にまわされぬわかれぬわかれ知恵者や
目覚めれば母の顔ありとぞと声かけてきし母のみ盡よ
屋根上に鳩のつがいがたむむれるかわい仕草に時を忘る
深みゆく秋の名残りか白壁に数羽のトビが張り付いている
友と行く秋風そよそよ果樹園の増毛の海辺でリンゴ狩りとは
頑なに意地を張り居る友ありき優しくなつと論じて帰る
還暦の祝いに吾らも招かれ婿も来春退職となる
ゆるやかに生きゆくべしと天と居て紅葉盛りの庭を眺むる
燃ろき秋の終りの葉鶏頭（はなすず）ははらばらと
歌を詠むことを忘れるともあまんな日々を秋深くして

俳句

竹島の友のまた一人逝く大落葉
触れたしと思ふに触れず落葉雨
護身術葉を落としての拓くあす
緋の浮遊終へて静もる落葉かな
夫と行く落葉の絨毯文学碑
落葉持つ散歩の土産小さき手に
杜の道一人舞台の忘れ花
吹き溜まりは重き言の葉落葉焚く
小六月鏡と化して忠別湖
落葉焚く煙と遊ぶ詩（こ）ろ
風に舞ふ落葉はワルツ踊るよう
境内を一変したる今朝の冬
胸中に積もりし古色なる落葉
自由奔放落葉の道は行き止まり

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 那須 喜美 | 瓜生 昭枝 | 松倉 和子 | 嶋崎 ミエ | 清水 チヨ | 岩田 ふじえ | 矢沢 ますえ | 笹田 富士子 | 中田 治子 | 岡澤 チス子 | 永江 栄子 | 宮坂 敬子 | 井山 一文 | |
| 宮坂 紫雲 | 秋山 深雪 | 杉山ひろのり | 徳光 吐苦 | 杉山 りつ | 山口 佐知子 | 高瀬 潤 | 石澤 清宏 | 澤田 久美子 | 三島 智 | 松山 蓉子 | 長谷川きみゑ | 小林 露葉 | 青野 公花 |

文化交流館 新刊図書・ビデオ 案内

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう（夜間返却窓口もご利用ください）。

世界ふれあい 街歩き (旅行・DVD)
NHKエンタープライズ
まるで自分で歩いているみたい！カメラがあなたの目になって、世界中の街を歩きます。美しい街並み、雑然とした露地、そこに暮らす人々とのふれあい。知らない街がきっと好きな街に変わります。イタリアの他、スペイン、中国、ベトナムなど10シリーズ。あなたはどの街を歩きますか？(各88分)

ありがとうサンタさん (絵本)
内田麟太郎：文／かずや昌宏：絵／刊：女子バウロ会
家族の顔も知らない、いつもひとりぼっちの男の子。おなかがいっぱい、だまっておばあさんの荷車からリンゴをとりました。クリスマスイブの日、男の子はうつむいたまま歩いています。「どうせぼくのところへなんか、サンタはこないんだ…」

薪ストーブの本VOL.1 (一般書)
地球丸：刊
薪ストーブの基本から上手な使い方、薪の入手や薪割り術、メンテナンス、料理の仕方まで、Q&A方式で徹底解説。こだわりの薪ストーブ・カタログ、全国ショップガイドも掲載。この一冊であなたも達人！